

記入例

財団処理欄

受付No.

提出日

平成27年

JR西日本あんしん社会財団 御中

平成28年度研究助成申請書

※実際の申請は、応募フォームからとなります。この記入例を参考に応募フォームから必要事項を入力のうえ申請してください。

1. 助成金により実施される研究名称／助成金申請額

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 研究名称 | 南海・東南海地震被害を想定した地域間ネットワーク構築に関する研究 |
| 助成金申請額 | 200 万円（1万円未満の端数を切り捨てた額）※200万円を上限とします |

※「研究名称」は分かりやすい簡潔な名称を記入してください。

2. 代表研究者（申請者）

| | | | | |
|------------|---|--|-----------------|--------------|
| フリガナ | ザイダン タロウ | 生年月日 | 昭和 43 年 9 月 9 日 | |
| 氏名 | 財団 太郎 | 年齢 | 47 歳 | |
| 所属機関 | フリガナ | ニシニホンアンシンダイガク | | |
| | 機関名 | 西日本あんしん大学 | | |
| | 役職 | 准教授 | | |
| | 〒 | 530 | - | 8341 |
| | フリガナ | オオサカシキタクシバタ | | |
| | 住所 | 大阪市北区芝田二丁目4-24 | | |
| | 電話 | 06-6375-3202 | Fax | 06-6375-3229 |
| | E-mail | info@jrw-relief-f.or.jp | | |
| URL | http://www.jrw-relief-f.or.jp/ | | | |
| 自宅 | 〒 | 593 | - | 8311 |
| | フリガナ | オオサカフサカイシニシク | | |
| | 住所 | 大阪府堺市西区〇丁目〇番〇号 <input checked="" type="checkbox"/> 郵便物配送先として指定する | | |
| | 電話 | 072-123-4567 | Fax | 072-123-4567 |
| | E-mail | nisi-nihon_zaidan_5470@e-mail.com | | |
| 最終学歴(専攻分野) | 西日本あんしん大学 経済学部経済学科 博士課程 | | | |

3. 代表研究者の略歴等

(1) 略歴

大学卒年を含め最終学歴から記入をはじめ、それ以降の略歴を年代順に記入してください。

| | |
|------------------|------------------------------|
| 平成 6 年 3 月 31 日 | 西日本あんしん大学 経済学部経済学科 卒業 |
| 平成 1 2 年 4 月 1 日 | 南海女子大学 社会学部 専任講師 |
| 平成 1 7 年 4 月 1 日 | 南海女子大学 社会学部 社会学科 助教授 |
| 平成 1 8 年 4 月 1 日 | 南海女子大学 社会学部 社会学科 准教授 |
| 平成 2 1 年 4 月 1 日 | 東南海女子大学 社会学部 社会学科 准教授 |
| 平成 2 3 年 4 月 1 日 | 西日本あんしん大学 社会安全学部 准教授（～現在に至る） |
| 平成 2 7 年 2 月 1 日 | 一般社団法人 地域コミュニティ防災連絡支援協議会 理事 |

(2) 研究論文等

申請いただいた研究テーマに関連する直近の研究論文等から順に最大3件まで記入してください

| 論文名 (タイトル) | | |
|---------------------------|----------------------------------|---|
| 著者名 (筆頭3名) | 掲載誌 (研究発表会) 等 発刊等 (巻・項や年・月・日) | 内容の要約 |
| 全国の消防団活動に関する連携とその歴史的背景 | | |
| 財団 太郎 | 日本と都市について 第〇巻 第〇号, 2015年9月9日 | アンケート調査やヒアリング調査を実施しながら、全国の消防団の連携を探りつつ、その歴史的な背景を明らかにし、あらためてその組織の課題を提起した。 |
| 災害地域における組織的特性について | | |
| 財団 太郎 財政 満子 | 土木学会論文集 Vol. 〇〇, No. 7 | 過去にあった災害地域を比較調査し、被害の拡大や縮小、その復興に関し、いかに当該地域の特性が関与したかを明らかにした。 |
| Tohoku Earthquake Tsunami | | |
| Taro Zaidan | Earth Planets Vol. 〇〇. 〇〇. pp. | 2011年の東北地震による津波の影響力を調査、分析し、地域特性が被害の拡大に影響したのかを考察した。 |

4. 助成研究計画

(1) 助成金により実施される研究の形態 (以下のうち、該当するものにチェックを入れてください)

| | |
|-------------------------------------|--------------------|
| <input type="checkbox"/> | 個人研究 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 共同研究 (代表研究者含む 3 名) |

※共同研究の場合は、以下に代表研究者を含む全研究者について必要事項を記入してください。なお、「関与度合い」には、各研究者の研究への関与率を合計100%となるように記載してください。

| 氏名 | 年齢 | 所属機関・役職 | 研究における役割 | 関与度合い |
|------------------|----|---------------|------------|-------|
| 《代表研究者》 財団 太郎 | 47 | 西日本あんしん大学・准教授 | 研究総括・分析 | 40 % |
| 《共同研究者》 財政 満子 | 32 | 西日本あんしん大学・助教授 | 数値シミュレーション | 30 % |
| 財界 次郎 | 24 | 西日本あんしん大学・助手 | 現地調査 | 30 % |
| (※100%にしてください) 計 | | | | 100 % |

(2) 助成金により実施される研究の概要

<記入方法> 助成金により実施される研究の計画を項目毎に以下のとおり記入してください。

上2段(①・②欄) : 各項目について概要を箇条書きで分かりやすくまとめてください。

詳細 : 各項目についてできるだけ詳しい内容を記入してください。

※各項目において補足説明等が必要な場合は、「6. 補足記入欄」に記入してください。

| |
|---|
| 【目的】 この研究が必要である目的を記入してください。 |
| ① : 本研究では、来るべき南海・東南海地震が発生した際の地域間ネットワークを利用した被害低減を第一の目的とする。 |
| ② : 災害発生地区の地域間ネットワークの効率的な構築により、平常時の地域コミュニティ形成にも役立てる。 |
| 詳細 |
| まず、本研究では、来るべき南海・東南海地震が発生した際の被害低減を第一の目的としたい。その理由として、以下のことが挙げられる。 |
| |
| |
| |
| |
| (中略) |
| |
| |
| |
| と考察する。 |
| そのため、これを第一の目的としたい。 |
| 災害発生地区の地域間ネットワークの効率的な構築により、平常時の地域コミュニティ形成にも役立てるとは、以下のようなことである。 |
| |
| |
| |
| (中略) |
| |
| |
| |
| であり、より一層その効果が期待できる。 |

【実施方法】

この研究の実施方法を記入してください。

詳細欄には、なるべく詳しい内容とあわせて研究スケジュールを記入してください。

①：資料やインタビュー調査を実施し、災害被害に対する各地域特性との関係を比較検討する。

②：得られた各種データから分析を行い、各地域間ネットワークを構築するための効果的な方法を結論づける。

詳細

【過去の災害資料から基礎的情報を把握する】

まず第一に過去の資料から災害における基礎的情報を得るための予備調査を実施する。そのために

.....

 (中略)

..を行う。

【現地調査の実施】

基礎的情報を得たうえで、過去に災害があった地域へ行き現地調査を実施する。例えば、

.....
 (中略)

を行う。

【得られたデータを数値化し、阻害要因等の把握整理を行う】

上記で得られたデータをもとに、阻害要因の把握につとめ

..... (中略)

.....、最終的には今後の災害時ネットワークを構築するうえでの新たな知見が得られる。

| 時期（年月日） | 研究内容 |
|-------------|--|
| 2015年4月～6月 | 書籍等を主とした基礎的情報の収集。災害伝承も含め、日本全国で発生し、主だった被害を与えた災害を中心に調査を実施する。 |
| 2015年9月～12月 | 予備調査を実施したうえで、災害被害地区をピックアップし、現地調査を実施する。収集データは随時数値化、整理を行う。 |
| 2016年1月～2月 | 得られたデータから災害時の地域間ネットワークを阻害する要因等を導き出し、効率的なネットワークに向けて理論化を行う。 |
| 2016年3月以降 | 学会での論文発表に向けた準備。 |

【成果】

この研究による成果について記入してください。
詳細欄には、なるべく詳しい内容を記入してください。

①： 南海・東南海地震が発生した際に、最も効率的、効果的な地域間ネットワークによる連携を生み出すことでその被害を低減できる。

②： 効果的な地域間ネットワークは地域に安心をもたらし、地域コミュニティを更に発展させる。

詳細

本研究で得られる成果は大きく2つある、まず第一に、最も効率的、効果的な地域間ネットワークにより、南海・東南海地震が発生した際に被害が最小限に抑制できる。そのことにより、

(中略)

……もっとも効果的な方法なると確信する。

次に、効果的な地域間ネットワークは地域に安心をもたらし、地域コミュニティを更に発展させることについてだが、この成果により

(中略)

……結果として様々な知見が得られることが期待でき、本研究結果において新たな地域間ネットワークの方向性を明確に示していきたいと考える。

(3) 助成研究公表予定

学会発表等外部への公表予定について、時期、公表機関名（雑誌名）、内容等を記入してください。

2016年3月～6月に投稿予定、〇〇学会（～～発表会）。
本研究成果については、随時HPで公開し、海外での〇〇学会（2016年8月）でも発表を行う。

2017年1月には本研究成果を口頭発表にて公表を予定している。

(4) 代表研究者における行政機関、公的団体、財団法人などの他団体等からの助成状況

※平成27年度の実績及び平成28年度の申請状況を記入してください。なお、各表の「状況」の欄には、『助成中』、『申請中』、『終了』等現在の状況を記入してください。

また、②平成28年度の申請状況の表の「重複時の対応」の欄には、他団体からの助成金と重複で採択された場合の対応を以下の選択肢から選び、『A』『B』『C』のいずれかを記入してください。

(A) 助成金の使途が重複してしまうので、当財団助成金は辞退する。

(B) 助成金の使途が重複してしまうので、他団体からの助成金を辞退する。

(C) 他団体へ申請しているものとは使途が異なるため、当財団助成金については申請計画どおり使用する。

①平成27年度における助成実績 ※当財団から助成を受けている場合も、必ず記入してください。

| 団体名等 | テーマ | 助成金額（円） | 助成期間 | 状況 |
|-------|------------------------|-----------|--------|-----|
| 科学研究費 | 災害規模におけるネットワークの効率性について | 3,000,000 | 2015年度 | 助成中 |

②平成28年度の申請状況（現在応募中若しくは既に決定しているもの）

| 他団体名等 | テーマ | 助成金額（円） | 助成期間 | 状況 | 重複時の対応 |
|-------|--------------------|-----------|------------|-----|--------|
| 科学研究費 | ・効率的な地域間ネットワークについて | 2,500,000 | 2016年度 | 申請中 | (A) |
| | ・津波災害と災害伝承について | 4,000,000 | 2016～2018年 | 申請中 | (C) |

当財団への申請だけでないのであれば、他団体との重複申請の状況（対応等含め）を必ず記入してください。

5. 研究収支

- ・助成研究に関する全収支計画を記入し、「研究資金」の合計額と「使途（内訳）」の合計額との金額が一致するようにしてください。
- ・当財団からの助成金の使途が分かるように、助成金を使用する項目では「（内 助成金充当額）」の欄に、使用する助成金額を再掲してください。
- ・各項目における計画額の内訳と算出根拠を「内訳・算出根拠」の欄に記入してください。

| 項 目 | | 計画額（円） | （内 助成金充当額） | 内訳・算出根拠 |
|--------|---------|-------------|-------------|--|
| 研究資金 | 当財団助成金 | ¥ 2,000,000 | | ※1万円未満の端数を切り捨てた額を計画額に掲載 |
| | 自己資金 | ¥ 300,000 | | 研究用自己資金 |
| | その他 | | | |
| | 計 | ¥ 2,300,000 | | |
| 使途（内訳） | 図書費 | ¥ 100,000 | 100,000 | 関係書籍 1冊平均2,000円×50冊 |
| | 旅費交通費 | ¥ 600,000 | 340,000 | 国内調査（主に和歌山）10万円×3回、海外への調査30万円 ※一部自己資金から負担 |
| | 諸謝金 | ¥ 254,000 | 254,000 | 海外での通訳代 |
| | 人件費 | ¥ 840,000 | 840,000 | データ入力等研究補助：時給1,000円×7時間×60日×2人 |
| | 印刷製本費 | ¥ 50,000 | 50,000 | 国会図書館等での資料複写 |
| | 消耗品費 | ¥ 40,000 | 0 | 文具等を想定 |
| | 什器備品費 | ¥ 200,000 | 200,000 | 当該研究専用パソコン（データ解析用専用高性能ソフト付） |
| | その他・管理費 | ¥ 216,000 | 216,000 | 大学の一般管理費（助成金の10%+消費税8%試算） |
| | | | | |
| | 計 | ¥ 2,300,000 | ¥ 2,000,000 | |

内訳や算出根拠については単価や根拠となる理由を詳細に記入してください。

※管理費について

- ・助成金を所属研究機関が管理する場合、その管理費は必要経費として助成対象とします。その他の間接経費は助成対象となりません。
- ・助成金を所属研究機関が管理しない場合、経常的に発生する間接経費は助成対象となりません。

《参考》

研究収支作成の際は、以下の項目（費目）を参考に作成してください。

○収入の部

- ・既に入力されている項目

○支出の部

- ・旅費交通費 … 研究を実施するために必要となる研究者及び共同研究者の出張旅費など
- ・会議費 … 会場使用料、会場設営費、お茶代など
- ・通信運搬費 … 郵送料、宅配便代など
- ・印刷製本費 … ポスター、パンフレット等の印刷代や資料等複写代など
- ・図書費 … 研究に必要な書籍等の購入費
- ・広告宣伝費 … 研究に関するシンポジウム等の開催告知など新聞、雑誌等で広告するための費用
- ・什器備品費 … 一件5万円以上で研究の実施に必要な備品等の購入費用
- ・消耗品費 … 一件5万円未満で研究の実施に必要な備品等の購入費用
- ・賃借料 … 設備、機械、器具、備品などの借料
- ・委託費 … 研究の実施に関する委託を行った際の費用
- ・諸謝金 … 研究に必要な研究者及び共同研究者以外に対する謝礼金や旅費、交通費、宿泊費など（研究者及び共同研究者の謝礼金は対象外）
- ・人件費 … 研究を行うことにより新たに必要となるアルバイト代など（研究者及び共同研究者の人件費は対象外）
- ・その他費用 … 上記各費目に該当せず、特に必要なその他の経費

・全体の研究資金の合計額と使途（内訳）の合計額が合うように記入してください。
・各使途の項目に対して、当財団の助成金はいくら充当するのかをしっかりと記入してください。

6. 補足記入欄

上記の他に助成金により実施される研究に関して特に補足説明することがあれば記入してください。（この項目はあくまでも補足であり、必須の記入項目ではありません）

◆本研究に関する補足

【今回の研究計画を実施準備について】

本研究に関しては、事前のアンケート調査を実施するなど、以前より調査の蓄積があり・・・（中略）

・・・基礎的な土台を築き上げてきた。

【調査実施における現時点での課題】

本研究を実施するにあたり、現時点で若干の課題が存在することをあらかじめ述べておく・・・（中略）

・・・とはいえ、上記の手法を使用すれば、全てとは言えないが7割方の課題は取り除くことが可能となる。

【研究経費の妥当性など】

本研究では、国内外への調査費用も計上しているが、それについての妥当性を以下に述べておく。つまり・・・

・・・（中略）

上記のような理由であれば、海外調査の妥当性も明白である。

また、本研究の成果は社会的にも大きな波及効果が考えられ、手法そのものにも以下のように独創的な点が見受けられると考える。

-
-
-

以上のことどもから、本研究を発展させることで、安全で安心な社会の実現に近づけることを確信している。

補足記入欄については必須ではありません。申請書の他の欄で記入しきれなかったことなど、今後の審査にあたり、ぜひとも伝えたい情報等があれば記入してください。

助成研究の一部を第三者に委託する場合は、委託内容とその費用について具体的に記されている資料（見積書や仕様書）を入力画面上の参照ボタンから添付してください。

7. その他、添付資料

- ・ 第三者への委託費及び内容
- ・ その他

その他、任意で必要な資料があれば、入力画面上の参照ボタンから添付してください。

<アンケート>

本公募助成の広報活動についてアンケートにご協力をお願いします。なお、ご回答の内容は、審査・選考に一切影響いたしません。

Q. 本公募助成を何でお知りになりましたか。該当する項目すべてに○をつけ、⑥⑦⑧⑨を選択された場合は、具体的にご記入ください。（複数回答可）

- ①ホームページ/ブログ
- ②広報誌“Relief”
- ③財団からの直接の案内
- ④駅掲示のポスター等
- ⑤JR西日本ホームページ
- ⑥新聞記事、専門誌
- ⑦当財団以外の団体からの紹介
- ⑧知人からの紹介
- ⑨その他

| | |
|-------|--|
| 具体的記載 | |
|-------|--|